

2024年度

名古屋大学大学院医学系研究科博士後期課程

第2次学生募集要項

[一般選抜・社会人特別選抜]

【総合保健学専攻】

名古屋大学大学院
医学系研究科

アドミッションポリシー

入学者受入れの方針

医学系研究科（保健学領域）の博士後期課程では、未来の「勇気ある知識人」を目指す人、保健学領域における卓越した研究者やフロントランナーを目指す人を求めます。また研究素養のある実務経験を有する社会人も求めます。保健学領域に関する高度な専門的学力、それを活用・発展する卓越した能力、高度な倫理性、国際的視野にたつ研究素養を適正に評価して、選抜する入試を実施します。入学者には次のような資質を有することを期待します。（1）人間に対する共感と深い洞察力を持つ。（2）知的好奇心旺盛で科学的探究心に富んでいる。（3）健康問題の解決に向けて、多面的にアプローチする素養を持つ。（4）協調性があり、国際的に活躍する素養を持つ。（5）独創性を備え、新たな分野を開拓する能力を有する。

選抜の基本方針

一般選抜では、修士の学位または専門職学位を授与（見込み）された者などを対象とします。社会人特別選抜では、一般選抜に該当する者に加え、医療・保健等に所属し、入学後もその身分を継続する者を対象とします。入学志願票・志願理由書・研究計画書等の提出された書類により、保健学領域に関する国際的視野にたつ研究素養や基本的研究能力やこれまでの研究実績を評価します。また英語による学力試験と口述試験において、科学英語の読解力、保健学領域における高度な専門的学力、それを活用・発展する卓越した能力および高度な倫理性などの入学者に期待する資質を評価し、これらを総合的に判断します。

目 次

2024年度 大学院医学系研究科博士後期課程

総合保健学専攻

第2次学生募集要項

1. 募集人員	1
2. 教育研究分野	1
3. 出願資格	1
4. 出願手続	2
5. 入学者選抜方法	5
6. 学力試験日時及び試験科目	5
7. 合格者発表	5
8. 入学手続等	5
9. 出願資格認定	6
10. 個人情報保護について	7

総合保健学専攻概要

I. 目 的	7
II. 教育課程の概要と特色	8
III. 各コースの概要	9
専任教員一覧	12

試験場案内略図	18
---------	----

コンビニ・クレジットカードでの入学検定料支払い方法	19
---------------------------	----

2024年度 名古屋大学大学院医学系研究科博士後期課程

総合保健学専攻

第2次学生募集要項

[一般選抜・社会人特別選抜]

1. 募集人員

専攻	募集人員
総合保健学専攻	若干名 ※

※社会人特別選抜による若干名を含む。

2. 教育研究分野

コース	分野	取得学位
看護学コース	看護科学	看護学
医療技術学コース	医用量子科学 病態解析学	医療技術学
リハビリテーション療法学コース	理学療法学 作業療法学	リハビリテーション療法学

※教育研究コースの内容について、7ページ以降の「総合保健学専攻概要」を参照してください。

※出願に際しては

- ・コース（取得予定学位）と指導予定教員を選択してください。
- ・指導予定教員との事前面談にて取得予定学位についてよく相談してください

3. 出願資格

[一般選抜]

次の各号のいずれかに該当する者とします。

- ①修士の学位又は専門職学位を授与された者及び2024年3月31日までに修了見込みの者
- ②外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2024年3月31日までに取得見込みの者
- ③外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2024年3月31日までに授与される見込みの者
- ④我が国において、外国に大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2024年3月31日までに授与される見込みの者
- ⑤国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び2024年3月31日までに授与される見込みの者
- ⑥外国の学校、上記資格④の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、博士論文研究基礎力審査に相当するものに合格した者及び2024年3月31日までに合格する見込みの者で、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- ⑦文部科学大臣の指定した者（平成元年9月1日文部省告示第118号）
「大学を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者」

⑧本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、2024年3月31日までに24歳に達する者
 一般選抜の出願者の内、学業を継続する上で困難な事由が生じた場合は、社会人として履修が可能になることもあるので、予定指導教員と連絡を取り、相談すること。

[社会人特別選抜]

上記の出願資格のいずれかに該当する者で、2024年3月31日までに医療・保健・福祉施設、教育研究機関、官公庁、企業等に所属し、入学後もその身分を継続する者。ただし、上記①から⑤のいずれかに該当する者は実務経験を要しない。

なお、上記⑥、⑦及び⑧のいずれかに該当する者の実務経験は、次のとおりとする。

・上記⑥、⑦の出願資格のいずれかに該当する者は、2024年3月31日までに医療・保健・福祉施設、教育研究機関、官公庁、企業等において専門的な実務経験（看護学コースは2年以上、医療技術学コース・リハビリテーション療法学コースは1年以上）を要する。

・上記⑧の出願資格に該当する者で、大学、短期大学、高等専門学校、専修学校専門課程又は各種学校を修了し、又は外国において、学校教育における14年の課程を修了した後、2024年3月31日までに医療・保健・福祉施設、教育研究機関、官公庁、企業等において7年以上（通算可）、15年の課程を修了した者は6年以上（通算可）、大学を卒業した者は5年以上（通算可）の専門的な実務経験を有し、入学後もその身分を継続する者。

***実務経験等については、指導予定教員に直接問い合わせてください。**

（「専任教員一覧」（12ページ以降）を参照のこと。）

※出願資格⑦⑧により出願を希望する者は、出願前に出願資格の認定を受けてください。

（6ページ「9. 出願資格認定」を参照のこと）

4. 出願手続

(1)-1 出願書類等

① 入学志願票	本研究科所定の用紙
② 受験票、写真票	本研究科所定の用紙 写真票に写真（縦4cm×横3cm、正面・上半身・無帽・無背景で出願前3か月以内に撮影したもの）を貼付してください。
③ 成績証明書	ア. 出身大学院研究科長等が作成し、厳封したもの。（学内受験者は厳封不要） イ. 出願資格⑦及び⑧の者は不要。
④ 修士課程修了（見込み） 証明書等	ア. 出身大学院研究科長等が作成したもの。 イ. 出願資格⑦及び⑧の者は、入学試験資格審査結果（写）
⑤ 修士の学位論文等	ア. 修士学位又は専門職学位を有する者は、修士論文の写し1部及びその要旨1部。要旨については1,600字程度でA4判用紙2枚（様式随意）にまとめてください。 イ. 修士学位又は専門職学位を取得する見込みの者は、研究経過報告書（研究計画及び修士論文の進捗状況）を3,000字程度A4判用紙4枚（様式随意）にまとめてください。 ウ. 出願資格⑦及び⑧の者は不要。
⑥ 志願理由書	本研究科所定の用紙
⑦ 研究計画書	研究の課題、動機、目的、方法について、A4判用紙2枚（様式随意）にまとめてください。
⑧ 研究業績調書	本研究科所定の用紙
⑨ 検定料	30,000円 （注）1. 納入済みの検定料は、返還しません。

	2. 本学大学院博士前期課程を修了し、引き続き博士後期課程に進学する者及び国費外国人留学生からは、検定料を徴収しません。なお、他大学大学院から受験する国費外国人留学生は「国費外国人留学生証明書」を提出すること。
⑩ 受験票送付用封筒	本研究科所定の封筒に志願者の住所、氏名、郵便番号を明記し、定形速達料金の切手（354円分）を貼ったもの。（海外の場合は返信に必要な郵便料金の国際返信切手券（IRC）を同封すること。）
⑪ あて名票	本研究科所定の用紙に志願者の住所、氏名、郵便番号を明記してください。
⑫ 受験者情報登録内容のコピー	下記リンクから受験者情報を登録の上、回答後に表示される「回答のPDFを印刷または入手する」ボタンから、回答の内容を印刷し、提出すること。 登録フォーム https://forms.office.com/r/gNTCF0XqTW 登録フォームは本研究科ホームページに掲載しています。 トップページ (https://www.met.nagoya-u.ac.jp) → 入学案内 → 博士後期課程 学生募集要項
⑬ 類型該当性の自己申告書	本研究科所定の用紙（両面）に、氏名とチェックを記入し、類型①～③に該当する場合は根拠を記載し、エビデンスも提出すること。
⑭ パスポートコピー等 [日本国籍を有しない者のみ。 ただし、日本国永住許可を得ている者は、不要。]	パスポートのコピー（顔写真のあるページ） なお、既に日本国内に居住している者は以下のいずれかも提出すること。 ア. 住民票記載事項証明書（在留資格、在留期間の記載されたもの。） イ. 在留カード又は外国人登録証明書のコピー（両面）
⑮ 在職期間証明書 [社会人特別選抜による出願者のみ]	在職時の職名、勤務期間を証明できる書類（様式随意）。
⑯ 就学承認書 [社会人特別選抜による出願者のみ]	本研究科所定の用紙により、所属機関の長が発行したもの。 ※入学手続き時まで提出すること。期日内に提出されない場合は、入学を認めない場合がある。

※書類は、日本語又は英語で作成するものとし、それ以外の言語で作成されている場合は、日本語又は英語の訳文を提出すること。

(1)-2 入学検定料の払込方法

① 入学検定料 30,000円

※別途、払込手数料（コンビニ支払い：616円 クレジットカード：840円）が必要となります。

② 払込期間（日本時間）

2023年11月6日（月）から2023年11月15日（水）

払込期間内に必ず払込をしてください。期限までに払込が確認できない場合は願書を受理しませんので、余裕を持って行ってください。

③ 払込方法

入学検定料の支払いは、以下のいずれかの方法で行ってください。

ア コンビニエンスストア（日本国内のみ）

イ クレジットカード

詳細については、19ページ「コンビニ・クレジットカードでの入学検定料支払方法」を確認してください。

④ 入学検定料の返還について

出願書類を受理した後は、納入済みの入学検定料は返還いたしません。ただし、以下に該当する場合は、納入された入学検定料を返還します。なお、返還にかかる振込手数料は差し引かせていただきます。

ア 入学検定料納入後、出願しなかった場合又は出願が受理されなかった場合

イ 入学検定料を二重に払い込んだ場合

※入学検定料の返還は銀行振込で行われます。海外の銀行の口座に返還する場合には、返還される金額は大きく減額される他、返還に多大な日数を要しますので、入学検定料の納入は慎重に行ってください。

返還請求方法については、名古屋大学ホームページ (<https://www.nagoya-u.ac.jp/>) →入学案内→大学院入試→入学検定料の支払い を確認してください。

(1)-3 安全保障輸出管理の「みなし輸出」の改訂について

2021年11月「外国為替及び外国貿易法」(外為法)に基づく「みなし輸出」における管理対象の明確化に伴い、大学・研究機関における学生への機微技術の提供の一部が外為法の管理対象となりました。

これに伴い、学生が本学に応募・出願の際、「類型該当判断のフローチャート」に基づく「類型該当性の自己申告書」の提出が必要となりますので、出願時に所定の様式により提出してください。また、合格時に「誓約書」の提出が必要となる場合があります。

(2)出願期間

2023年11月13日(月)から2023年11月16日(木)まで

※期間内必着(16日は17時まで)のこと。出願期間を過ぎて届いた願書は受理しませんので郵便事情に十分考慮してください。

(3)出願書類等の提出方法・提出先

出願書類等を本研究科所定の封筒に入れ、必ず**書留・速達郵便**で「(2)出願期間」内に必着するように送付してください。

[提出先]

〒461-8673 名古屋市東区大幸南一丁目1番20号

名古屋大学大学院医学系研究科・医学部保健学科 大幸地区事務統括室大幸教務学生係
(TEL 052-719-1598, 1518, 1521)

(4)注意事項

- ①出願しようとする者は、必ず事前に志望する教員と今後の研究内容について相談してください。(「専任教員一覧」(12ページ以降)を参照のこと)。
- ②出願書類等の提出は郵送に限ります。
- ③改姓等により修了証明書等の氏名が異なっている場合は、戸籍抄本(外国籍の場合は、これに相当する書類)を添付してください。
- ④出願書類等に不備がある場合は、受理しないことがあります。
- ⑤出願書類受理後は、いかなる理由があっても書類の返却、記載事項の変更及び検定料の返還はしません。
ただし、住所・電話番号に変更のあった場合には大幸教務学生係(以下、教務学生係)まで連絡してください。
- ⑥出願書類に虚偽の記載があった場合は、入学許可を取り消すことがあります。
- ⑦本研究科に出願する者のうち、障害のある者等で、受験上特別の配慮を必要とする場合は、出願期間前に教務学生係に申し出てください。
- ⑧試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後30分以内に限り、受験を認めず。
- ⑨受験票は、願書受付後発送しますが、2023年12月7日(木)までに届かない場合は、教務学生係に問い合わせてください。

※不測の事態が発生した場合の諸連絡

災害や感染症の流行等により、試験日程や選抜内容等に変更が生じた場合は、次のホームページ等により周知しますので、特に注意してください。

試験日程の延期が難しい場合、中止の可能性もありますのでご了承ください。

◇ 名古屋大学大学院医学系研究科・医学部保健学科ホームページ

URL <https://www.met.nagoya-u.ac.jp/>

◇ 連絡窓口

名古屋大学大学院医学系研究科・医学部保健学科

大幸地区事務統括室大幸教務学生係

TEL (052)719-1598, 1518, 1521

5. 入学者選抜方法

学力試験、口述試験及び提出された書類の審査結果を総合して判定します。ただし、看護学コースにおいては、英語試験に最低基準点を設定しています。

6. 学力試験日時及び試験科目

試験日	試験科目	時間	試験場
2024年 1月9日(火)	英語※	11:00~12:00	名古屋大学大学院医学系研究科・医学部保健学科 名古屋市東区大幸南一丁目1番20号
	口述試験※※	13:30~	

※ 辞書の持込は不可です。

※※①修士論文あるいはこれまでの研究内容、および②これからの研究計画など、について発表し(約15分)、それをもとに質疑応答を行います。

7. 合格者発表

2024年1月19日(金)正午、名古屋大学大学院医学系研究科・医学部保健学科玄関前に掲示するとともに、合格者には合格通知書及び入学手続書類等を郵送します。

なお、名古屋大学大学院医学系研究科・医学部保健学科ホームページにも合格発表のページを設け、発表日の当日中には掲載します。

<https://www.met.nagoya-u.ac.jp/>

電話等による可否の問い合わせには、一切応じません。

8. 入学手続等

(1)入学手続日時

合格通知送付時に通知します。

(2) 授業料等学生納入金

- ① 入学料 282,000円 [予定額]
- ② 授業料 前期分267,900円 (年額 535,800円) [予定額]

なお、入学時または在学中に入学料・授業料の改定が行われた場合には、改定時から新たな入学料・授業料が適用されます。

(注)

- ① 本学大学院博士前期課程を修了し、引き続き博士後期課程に進学する者からは、入学料は徴収しません。
- ② 授業料は、前期及び後期に分けて、前期にあつては5月、後期にあつては11月に納入してください。
- ③ 納入済みの入学料は返還しません。
- ④ 国費外国人留学生は入学料・授業料とも不要です。

(3) 提出書類等

合格通知書送付時に詳細を通知します。

9. 出願資格認定

出願資格⑦⑧により出願しようとする者は、次により出願資格の認定を受けてください。

(1) 提出書類 ※提出書類は返還しません。

A) 出願資格⑦により出願しようとする者

① 出願資格認定申請書	本研究科所定の用紙
② 成績証明書	出身大学の長等が作成し、厳封したもの。
③ 卒業証明書	出身大学の長等が作成したもの。
④ 研究歴証明書	在籍もしくは在籍した機関の長等が作成したもの。
⑤ 自己推薦書	本研究科所定の用紙
⑥ 研究業績調書	本研究科所定の用紙
⑦ 審査結果通知用返信封筒	長形3号の封筒に本人の住所、氏名、郵便番号を明記し84円切手を貼付したもの。 (海外の場合は返信に必要な郵便料金の国際返信切手券 (IRC) を同封すること。)

B) 出願資格⑧により出願しようとする者

① 出願資格認定申請書	本研究科所定の用紙
② 最終学校成績証明書	出身学校長等が作成し、厳封したもの。
③ 最終学校卒業証明書	出身学校長等が作成したもの。
④ 在職期間証明書	技術的・専門的職業についての職歴を有する者で、その期間及び職務内容を明記し、機関の長等が作成したもの。
⑤ 自己推薦書	本研究科所定の用紙
⑥ 研究業績調書	本研究科所定の用紙
⑦ 出身学校の規定等	卒業要件 (在学期間・授業科目・単位数) の記載されたもの及び卒業に必要な授業科目のシラバス等 (授業内容が記載されたもの)。
⑧ 審査結果通知用返信封筒	長形3号の封筒に本人の住所、氏名、郵便番号を明記し84円切手を貼付したもの。 (海外の場合は返信に必要な郵便料金の国際返信切手券 (IRC) を同封すること。)

※ A) B) とともに改姓等により修了証明書等の氏名が異なっている場合は戸籍抄本 (外国籍の場合は、これに相当する書類) を添付してください。

書類は、日本語又は英語で作成するものとし、それ以外の言語で作成されている場合は、日本語又は英語の訳文を提出すること。

(2)提出期間

2023年10月20日（金）から2023年10月24日（火）

※期間内必着（24日は17時まで）のこと。

(3)提出方法・提出先

①書留・速達郵便で「(2)提出期間」内に必着するように送付してください。

②封筒の表に「医学系研究科博士後期課程出願資格審査書類在中」と朱書きしてください。

[提出先]

〒461-8673 名古屋市東区大幸南一丁目1番20号

名古屋大学大学院医学系研究科・医学部保健学科 大幸地区事務統括室大幸教務学生係

(4)結果通知

審査結果は、2023年11月6日（月）に本人宛に発送します。

出願資格を認定された者は、出願手続を行ってください。

10. 個人情報保護について

住所・氏名・生年月日その他の個人情報は、入学者選抜、合格発表、入学手続及びこれらに付随する事項並びに入学後の学務業務における学籍・成績管理を行うためにのみ利用します。また、取得した個人情報は適切に管理し、利用目的以外に利用しません。

総合保健学専攻

概 要

I. 目 的

名古屋大学医学系研究科は、「医学及び保健学における学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことにより、文化の進展に寄与するとともに、医学及び保健学における学術の研究者、高度の専門技術者及び教授者を養成すること」を目的としている。

保健学部門における本大学院研究科では、上記目的を基に、以下のように人材育成と研究実践の推進により、将来の保健医療を担うリーダーとなりうる中核的人材を育成し、現代の保健医療の進歩に貢献することを設置目的とする。

- (1) 保健医療の高度専門知識と広い視野と高い倫理観をもち、現代保健医療の問題解決へ向けた研究開発マインドをもつ指導的・高度医療人の育成
- (2) 保健医療分野の研究・教育を担う研究・教育者の育成
- (3) ライフイノベーションを担う先進的保健医療研究と、生活の質（QOL）重視の患者家族支援（ケア）の研究実践の推進

II. 教育課程の概要と特色

大学院教育の充実・高度化および研究実践の推進を図り、上記の設置目的を達成するために、現在の学部教育に併設された大学院教育から、大学院教育・研究を中心とする組織に体制強化することが必要である。

1) 大学院教育の充実・高度化による人材育成の強化

大学院教育プログラムの充実・高度化を図ることで、保健医療の高度化に対応する将来のリーダーとなりうる中核的人材育成に繋がる。

① 指導的高度医療専門職の育成

本学では、平成18年度よりがん看護専門看護師（CNS）養成課程を設置し、平成22年度には小児専門看護師（CNS）養成課程を設置した。

それに加え、現代の保健医療に関する体系的教育カリキュラムの充実・高度化を図り、社会人大学院生を含めた各医療専門職の知識技能向上に資する。

② 専攻・分野横断型の教育プログラムの充実

平成19年度より開始した本学独自の「トータルヘルスプランナー（THP）養成コース」（平成19年度文部科学省大学院 GP 採択）のように、専攻・分野横断型の教育プログラムにより、多職種連携によるチーム医療推進を視野に入れた「専攻横断型の包括的医療専門職」の育成強化を図る。

また、平成22年度より導入した基礎的な研究手法について実習する「基礎医科学実習科目」のように、共通して習得すべき基礎的知識・技能について、専攻横断型の共通教育プログラムの充実を図る。

③ 研究開発マインドを持った人材の育成

下記の保健医療研究の推進とも相まって、現代保健医療の問題解決へ向けた研究開発マインドをもつ人材育成を図る。研究開発能力の基本を育成することで、現代の保健医療の諸課題に対して、研究的視点で問題解決に挑戦し、21世紀の新しい保健医療を開拓する指導的中核的医療人の育成に繋がる。

④ 国際的視野を持つ人材の育成

急速に進展するグローバル化に対応する人材育成を図る組織的基盤を強化する。本学では、平成22年より韓国の延世大学との間で大学院レベルでの学術研究交流事業を開始した。これを端緒として国際交流プログラムの充実を図り、国際的視野を持つ人材育成を強化する。

⑤ 医学部附属病院との連携強化による実践的人材育成の促進

平成22年度より附属病院看護部と共同で文部科学省「看護師の人材育成システムの確立」の取り組みを開始した。この機に附属病院医療スタッフと本学教員との連携を強め、病院医療職の本研究科大学院へのアクセス向上・キャリアアップの機会提供につなげるとともに、臨床実践に密着した大学院教育プログラムの充実にもつなげる。

2) 保健医療関連の研究・教育者の輩出

博士後期課程の教育プログラムの強化により、博士号授与者の輩出を強化することは、保健学関連の研究・教育者の輩出に繋がり、保健学関連分野の継続発展の基盤強化となる。現代の医学医療の高度化や高齢社会の進展の中で、保健医療分野の研究開発の社会的要請は大きく、研究指導者育成の必要性は大きい。また、近年保健学系大学は急速に増加しており、大学の研究・教育を担う研

究・教育者の育成および現職教員の研究・教育能力向上は、重要な課題である。今後さらに博士号授与者の輩出の強化に努め、将来を担う研究指導者の育成を図る。なお本研究科では、平成22年度より指導教員は学位審査の主査を兼ねない制度を導入するとともに、学位審査の予備審査会を各専攻共通して統一日に公開開催する等、学位授与の透明性・客観性を高める努力をしている。

3) 保健医療研究の推進

大学院講座化を実施し、研究推進を組織目標の一つとすることで、設置目的で述べたように「ライフイノベーションを担う先進的保健医療研究と、生活の質（QOL）重視の患者家族支援（ケア）の研究実践の推進」の強化を図る。保健医療分野の研究推進は、全国的に保健学系大学の歴史が浅い中で、強化すべき社会的責務も大きい。本学では、平成23年10月に「脳とこころの研究センター」を要項設置し、また、「ライフトピア地域支援研究センター」を立ち上げつつあり、医学系研究科をはじめ学内外との連携強化を図り、分野横断型の研究プロジェクトの構築により、保健医療研究の推進の強化を図る。

Ⅲ. 各コースの概要

1. 看護学コース

日本の高齢化は急速に進み、すでに人口減少の時代に突入して人口構造の変化は著しい。医学医療が進歩し医療情報が高度化する一方、生活の質の向上を目指した患者家族中心のケアに対するニーズは高まっている。地域包括ケアシステムの構築・推進とともに、看護の役割拡大も大きな課題である。多様化する保健医療の要請に応えるため、看護学としてのケアシステムや看護技術の開発、看護手法の科学的追究など、世界をリードする科学的根拠のある看護学の発展にむけた研究・教育の推進が求められている。看護学コースでは、現在の高度化する医療に対応し、高い倫理観を有し包括的な患者家族支援を展開できる看護専門職のリーダー／変革者となる人材、多様化する保健医療において新しい看護学の創造に挑戦する研究・教育者の育成を目的とする。

看護学コースでは、看護システム・ケア開発学、高度実践看護開発学、次世代育成看護学、地域包括ケア開発看護学について探求する。

看護システム・ケア開発学においては、多様化する社会とともに変化する保健医療やニーズに応える看護のエビデンスを創出し、学融的展開を視野に入れ、先端的な看護技術と革新的なケアシステムの開発および構築を目指す。主として、①卓越した看護アセスメント技術開発、②科学的・理論的根拠に基づく看護ケア技術の開発・検証、③看護ケアの構成要素や構造の解明とシステムへの導入過程の検証などについて探求する。

高度実践看護開発学においては、高度な医療技術が施される病院という特殊な場と地域社会における生活の場との連携を視野に入れ、健康障害をもつ人々に対し自己効力感を高めることができるように、その人らしさを尊重した実践的な看護の開発を目指す。主として、①卓越した高度がん看護専門職の機能とシステム開発に寄与する課題、②周手術期・急性期・救急場面及びクリティカル状態にある患者の生命・生活と家族を支える援助方法に関する課題、③慢性的な健康障害をもつ人々及び治癒困難な状況にある人々と家族に対する実践的な援助方法を開発する課題、④精神・心理的な健康障害をもつ人々と家族に対する地域包括的な看護を提供するための課題について探求する。

次世代育成看護学においては、看護の対象の健康はもとより、家族全体のウェルビーイングを

目指して、個人・家族システム・コミュニティーを視野に発達を支援するケアシステムの開発と理論の構築を行う。ライフサイクル各期において、さまざまな健康レベルにある個人・家族・集団の健康アセスメントやヘルスプロモーションの理論に基づいた看護を提供するために、主として、①子どもと家族の発達を支援する効果的な小児看護の役割モデルやケアシステムの開発に関する課題、②性と生殖にかかわる保健・周産期家族の健康管理・母子／父子関係成立に関する援助に関する課題、③健やかな子どもを生ま育てるためのライフサイクル全般にわたる予防的看護支援モデルの開発について探求する。

地域包括ケア開発看護学においては、地域で生活する人々の健康と QOL 向上を目的とした支援を提供するために、主として、①住民や特定集団を対象としたヘルスプロモーションにおける課題、②主に成人・老年期における生活習慣病予防を中心とした支援方法や事業評価指標の開発、③地域特性をとらえた包括的な看護モデル、ケアシステムの開発について探求する。

2. 医療技術学コース

近年の医療技術、医療機器の進歩は著しく、これらを活用した診断技術、病態解析技術、治療技術の高度化も顕著である。そして、遺伝子医療や移植・再生医療、人工臓器などの医療の革新的変化に対応する医療技術学面での新たな研究開発の重要性が益々増大している。医療技術学コースでは、これら医療の高度化をさらに推進する生体情報取得技術、診断技術、病態解析技術、治療技術などのライフイノベーションに繋がる専門技術の研究開発を目指す。また、医療技術人材の教育・育成においては、高度化する医療技術を医療現場で創造的に活用できる指導的な高度専門職業人の育成を図るとともに、先端医学医療に繋がる医療技術学分野の研究を推進する研究・教育者の育成を図る。

【医用量子科学分野】

医用量子科学分野の研究は、放射線、磁気、超音波などの媒体を用いて、生体情報を得るための基礎研究とその手法の開発を行い、それらの情報を有効且つ安全に用いるための診断支援システムやネットワークシステム、治療技術、放射線被ばく制御技術などの開発研究を行う。一方、本分野における教育領域としては、放射線や放射性同位体の物理学、化学、計測学の基礎から応用までに加えて、医用画像情報学、画像診断技術学、核医学検査技術学、放射線治療技術学、放射線安全管理技術学等が主体となる。これらの教育を行うことにより、既存の知識に加え、新しい発想でシステムの開発を目指し、世界的な研究の一翼を担うことのできる研究者、広い見地から医療を見渡せる医療施設のリーダー及び高度な知識と技術を有する教育者の育成に努める。

【病態解析学分野】

病態解析学分野の研究は、正常状態・病的状態の生体の諸現象を様々な検査手法を駆使して解析し生体機能及び各種病態の解明に資すること、並びに最新の基礎医学研究成果を取り入れ診療および疾病予防に有用な生体情報を得るための新たな技術を開発し応用することを目的としている。そのために本分野では、免疫学、微生物学、分析化学、生理学、血液学、病理学、疫学など様々な専門分野の研究者が、情報・オミックス科学を取り入れた先端的な研究を進めるとともに、従来の学問の枠組みを越えて協力した学際的な病態解析、検査技術開発に臨む。これらの研究を通じた教育活動として、先端医学につながる病態解析学研究を遂行する能力をもつ研究者の育成、及び指導者・教育者としての高度な専門知識・技術を有する人材の育成を図る。

3. リハビリテーション療法学コース

リハビリテーション療法学（理学療法学及び作業療法学）は、従来の身体機能回復のみならず、疾患・外傷の初期段階から治療と機能回復、社会復帰を含めた、疾病管理・生活支援により患者家族の生活の質の向上を目指す総合医療分野として認識されてきている。近年では高齢社会の進展で、高齢者への早期からの予防的な疾病管理・生活援助を含めたりハビリテーション療法の確立も求められるなど、リハビリテーション療法の適用範囲は増大している。リハビリテーション療法学では、現代の高齢社会の中で患者家族の疾病管理・生活支援を推進するリハビリテーション療法を開発推進する高度の専門知識を有する指導の高度医療専門職の育成を図るとともに、新しいリハビリテーション療法学の分野を開拓創造する研究・教育者の育成を図ることを目的とする。

【理学療法学分野】

理学療法学は、身体組織および機能の障害、あるいは能力低下を持ちながらも、質の高い人生を送るために不可欠なリハビリテーション医療に関する研究推進ならびに高度専門教育を行う。そのために、障害の原因となる病態や機能障害の発生機序を生理学的に解明する基礎研究とともに、障害の効果的回復や機能維持、更には疾病・障害の再発予防に関する臨床研究を積極的に推進し、質の高い理学療法の基盤を創造する。また、学内他コース・他専攻はもとより、他大学ならびに海外の学術・研究チームと積極的に交流し、国際的水準で研究推進ならびに後進の指導を行い得る人材の育成に努める。

【作業療法学分野】

作業療法学分野は、人の身体、精神、成長発達および老化に関するほとんど全ての機能障害とその病態を対象とする研究・教育を行う。そして、様々な機能障害に対する作業療法介入の効果、能力や障害の評価、あるいは生活支援や社会適応の開発など、特化した視点から見た高度な作業療法学の研究と教育を目指す。同時に本分野は、作業療法の対象となる身体的および精神的疾患に関わる基礎的研究と創造的開発を推進し、指導的な立場で国内外の研究、学際的な研究に携わり、高度な専門知識と技術をもって後進の教育を行うことのできる人材の育成に努める。

専任教員一覧（後期課程）

看護科学（メールによる問い合わせ先：@met.nagoya-u.ac.jp を続けてください）

講座	職名	氏名及び連絡先	担当授業科目名	研究課題
看護システム・ケア開発学	教授	玉腰 浩司 Tel 719-1564 E-mail tamako	保健医療データ活用法特講 次世代育成看護学特講 次世代育成看護学特講演習 特別研究	1. 生活習慣病に関する研究 2. 母子保健に関する研究 3. 婦人科疾患，周産期疾患に関する研究
	教授	本田 育美 Tel 719-1922 E-mail ihonda	看護システム・ケア開発学特講 看護システム・ケア開発学特講演習 特別研究	1. 慢性の病いをもつ人のセルフマネジメントや疾病管理の支援に向けた看護ケアの開発 2. 高齢者のヘルスプロモーションに関する研究 3. 看護師の臨床推論に関する研究
	准教授	中山 奈津紀 Tel 719-1572 E-mail nakayama	看護システム・ケア開発学特講 看護システム・ケア開発学特講演習 特別研究	1. 循環器疾患患者の生活支援に関する研究 2. シミュレーション教育に関する研究 3. 精神疾患患者の生理学データの臨床応用に関する研究 4. 過敏性腸症候群と自律神経活動指標に関する研究
	講師	竹野 ゆかり Tel 719-1381 E-mail takeno	看護システム・ケア開発学特講 看護システム・ケア開発学特講演習 特別研究	1. 浮腫に関する研究 2. 創傷治癒に関する研究 * 以上は動物実験可 3. 看護移民に関する研究
	講師	中西 啓介 Tel 719-3102 E-mail nakanishi	看護システム・ケア開発学特講 看護システム・ケア開発学特講演習 特別研究	1. リンパ浮腫のアセスメントツール開発 2. リンパ浮腫のケア開発 3. 慢性疾患患者やそこに携わる医療者の内面世界に関する質的探索
高度実践看護開発学	教授	佐藤 一樹 Tel 719-1109 E-mail satok	高度実践看護開発学特講 高度実践看護開発学特講演習 特別研究	1. がん患者の QOL の測定方法の開発と評価に関する研究 2. 緩和ケアの質評価に関する研究 3. 終末期医療の質評価に関する研究 4. 緩和ケアのナショナルデータの整理に関する研究 5. 医療ビッグデータを用いた疫学研究
	講師	杉村 鮎美 Tel 719-3100 E-mail sugimura	高度実践看護開発学特講 高度実践看護開発学特講演習 特別研究	1. がん患者の症状マネジメントに関する研究 2. がん患者の在宅緩和ケアに関する研究 3. 終末期ケアに携わる医療者の支援に関する研究
	講師	石田 京子 Tel 719-1568 E-mail k_ishida	高度実践看護開発学特講 高度実践看護開発学特講演習 特別研究	1. がん患者および家族の診断前～治療期の体験に関する研究 2. 希少がんに関する疫学研究 3. 緩和ケア実践、および、緩和ケアチーム活動に関する研究 4. がん患者の看護面談に関する実態調査 5. 周術期にある患者と家族の看護に関する研究
	講師	牧 茂義 Tel 719-1920 E-mail smaki	高度実践看護開発学特講 高度実践看護開発学特講演習 特別研究	1. 統合失調症をもつ人のリカバリーをめざした看護支援に関する研究 2. 精神疾患をもつ人の病識に関する研究 3. 精神疾患をもつ人の地域移行支援に関する研究

講座	職名	氏名及び連絡先	担当授業科目名	研究課題
次世代育成看護学	教授	浅野 みどり Tel 719-3157 E-mail midoria	次世代育成看護学特講 次世代育成看護学特講演習 特別研究	1. スペシャルニーズをもつ子どもと家族の看護（アレルギー、小児がん、NICU、発達上の問題 など） 2. 子どもと家族の価値観と強みを尊重した予防的ケア 3. 子どもと家族の Well-being 4. 多世代共生モデルの開発
	教授	入山 茂美 Tel 719-1574 E-mail iriyama	次世代育成看護学特講 次世代育成看護学特講演習 特別研究	1. 産褥期の母乳育児に関する研究 2. 妊産婦のストレスに関する研究 3. 助産師のストレスに関する研究 4. 国際母子保健に関する研究
	准教授	島 明子 Tel 719-1382	次世代育成看護学特講 次世代育成看護学特講演習 特別研究	1. 女性のヘルスケアに関する研究 2. 中高年女性の更年期症状のケアに関する研究 3. 周産期ケアに関する研究
	准教授	高橋 由紀 Tel 719-1573 E-mail yukitaka	次世代育成看護学特講 次世代育成看護学特講演習 特別研究	1. Skin-to-Skin Contact の実証研究 2. 周産期の栄養が胎児期から新生児期・母乳に与える経世代的影響 3. 母親役割過程における心理・身体回復に関する研究
	准教授	新家 一輝 Tel 719-1566 E-mail niinomi	次世代育成看護学特講 次世代育成看護学特講演習 特別研究	1. 病気や障害をとまなう子どもと家族のニーズと看護に関する研究 2. きょうだいが病気や障害をとまなう子どものニーズとケア研究 3. 小児がん等慢性疾患 / 重症心身障害に関連する小児緩和ケア研究
地域包括ケア開発看護学	教授	西谷 直子 Tel 719-1569 E-mail n-nishitani	地域包括ケア開発看護学特講 地域包括ケア開発看護学特講演習 特別研究	1. 生活習慣と心身の健康との関連 2. 働く人の健康管理 3. 職場ストレスと心身の健康との関連 4. 職場の環境管理 5. 地域の保健活動、健康管理
	教授	林 登志雄 Tel 719-1924 E-mail hayashi	地域包括ケア開発看護学特講 地域包括ケア開発看護学特講演習 特別研究	1. 訪問看護と在宅医療 2. 終末期医療と看護 3. 高齢者糖尿病 - コホート研究から治療ガイドライン作成まで 4. 細胞老化と動脈硬化症 5. 遺伝性（家族性）高脂血症 6. アジア女性健康長寿研究
	准教授	星野 純子 Tel 719-3150 E-mail hoshinoj	地域包括ケア開発看護学特講 地域包括ケア開発看護学特講演習 特別研究	1. 家族介護者への健康支援に関する研究 2. 地域住民の認知症発症に対する感情の研究 3. 看護師のキャリア発達に関する研究 4. 在宅療養者への生活支援に関する研究
	講師	田中 真木 Tel 719-1567 E-mail mtanaka	地域包括ケア開発看護学特講 地域包括ケア開発看護学特講演習 特別研究	1. 看護倫理に関する研究 2. ナラティブ分析を用いた研究 3. 身体抑制に関する研究 4. 老年看護学に関する研究 5. 看護教育に関する研究

バイオメディカルイメージング情報科学 (メールによる問い合わせ先: @met.nagoya-u.ac.jp を続けてください)

講座	職名	氏名及び連絡先	担当授業科目名	研究課題
医用画像工学	教授	西井 龍一 Tel 719-3154 E-mail nishii	医用画像工学特講 医用画像工学特講演習 特別研究	1. 分子イメージング診断研究 2. アミノ酸などの放射性医薬化学研究 (基礎研究・臨床研究) 3. 臨床核医学画像診断開発研究 4. 標的アイソトープ治療開発研究 5. 腫瘍画像診断研究 6. 臨床画像を用いた放射線被ばく線量評価研究
	准教授	小山 修司 Tel 719-1595 E-mail koyama	医用画像工学特講 医用画像工学特講演習 特別研究	1. 診断領域 X 線の計測 2. 医学物理でのモンテカルロシミュレーションの応用 3. X 線診断機器の開発 4. 脳機能解析の MR 撮像に関する研究
	准教授	砂口 尚輝 Tel 719-1554 E-mail sunaguchi	医用画像工学特講 医用画像工学特講演習 特別研究	1. 放射光 X 線イメージング手法の開発 2. CT 再構成アルゴリズムの開発
医用画像解析学	教授	今井 國治 Tel 719-3114 E-mail imai	医用画像解析学特講 医用画像解析学特講演習 特別研究	1. 数理統計学及び情報理論に基づく医用画像の画質評価 2. 薬剤学に基づくヨード系造影剤の物性解析
	准教授	松島 秀 Tel 719-1562 E-mail smts	医用画像解析学特講 医用画像解析学特講演習 特別研究	1. MRI による臨床分子イメージングの開発 2. MRI による臨床腫瘍イメージングの開発
	講師	川浦 稚代 Tel 719-3105 E-mail kawaura	医用画像解析学特講 医用画像解析学特講演習 特別研究	1. 子どもの医療被ばく評価 2. 画質と線量の関係解明 3. 放射線画像診断検査の最適化に関する研究
	講師	藤井 啓輔 Tel 719-1154 E-mail fujii	医用画像解析学特講 医用画像解析学特講演習 特別研究	1. 実測およびシミュレーション計算に基づいた放射線診断検査における被ばく線量評価 2. 画質および線量評価に基づいた撮影条件の最適化に関する研究
医用量子科学	准教授	小森 雅孝 Tel 719-1585 E-mail komori	医用量子科学特講 医用量子科学特講演習 特別研究	1. 放射線治療の線量分布評価 2. 粒子線治療の照射野形成法の開発 3. 粒子線治療の中性子被ばくの評価
医用機能画像評価学	教授	加藤 克彦 Tel 719-1590 E-mail katokt	医用機能画像評価学特講 医用機能画像評価学特講演習 特別研究	1. ポジトロン核医学に関する研究 2. 核医学画像診断 3. 甲状腺機能亢進症の ¹³¹ I 内用療法
	教授	古川 高子 Tel 719-1548 E-mail furukawa	医用機能画像評価学特講 医用機能画像評価学特講演習 特別研究	1. 核医学診断・治療に係る放射性薬剤をはじめとする分子プローブの開発・評価に関する基礎研究
	准教授	平野 祥之 Tel 719-1593 E-mail hirano	医用機能画像評価学特講 医用機能画像評価学特講演習 特別研究	1. 医学物理における放射線シミュレーション 2. 放射線治療における生物学的効果 3. 物理化学過程における放射線影響
生体機能科学	教授	亀高 諭 Tel 719-1344 E-mail kametaks	基礎医学実習 リハビリテーション療法学特講 I リハビリテーション研究実践特講セミナー 特別研究	1. 骨格筋分化, 特に筋芽細胞の細胞融合過程の調節機構についての細胞生物学的解析 2. 神経系の遺伝性疾患発症の分子機構
	教授	杉浦 英志 Tel 719-1364 E-mail hsugiura	リハビリテーション療法学特講 I リハビリテーション研究実践特講セミナー 特別研究	1. がんによるサルコペニアに対する運動療法プログラムの開発 2. 小児の歩行解析と身体機能に関する前向きコホート研究 3. 地域在住高齢者の身体、認知機能低下に関する前向きコホート研究
	講師	荒井 律子 Tel 719-3151 E-mail riarai	特別研究	1. 細胞膜動態の微細形態解析 2. 筋発生プロセスのライブイメージング解析 3. 個体発生とエピジェネティクス

オミックス医療科学 (メールによる問い合わせ先: @met.nagoya-u.ac.jp を続けてください)

講座	職名	氏名及び連絡先	担当授業科目名	研究課題
生体防御情報科学	教授	川部 勤 Tel 719-1547 E-mail kawabe	生体防御情報科学特講 生体防御情報科学特講演習 特別研究	1. CD40分子の機能解析 2. 病態生理に基づいたアレルギー検査法の開発 3. 呼吸器疾患の検査・診断法の開発
	教授	佐藤 光夫 Tel 719-1558 E-mail msato	生体防御情報科学特講 生体防御情報科学特講演習 細胞遺伝子情報科学特講 細胞遺伝子情報科学特講演習 特別研究	1. 肺癌の新規治療標的発見および創薬開発 2. 肺癌の上皮間葉細胞転換に関する研究
	准教授	川村 久美子 Tel 719-3116 E-mail kumiko	生体防御情報科学特講 生体防御情報科学特講演習 特別研究	1. 病原細菌における薬剤耐性機構の解析 2. 病原細菌における消毒薬抵抗性の解析 3. 多剤耐性グラム陰性桿菌の迅速検出法の開発
	講師	松島 充代子 Tel 719-1197 E-mail matsu	生体防御情報科学特講 生体防御情報科学特講演習 特別研究	1. CD40分子の機能解析 2. 生理活性物質による免疫修飾機構の解析 3. アレルギー検査法の開発
病態情報科学	教授	永田 浩三 Tel 719-1546 E-mail nagata	病態情報科学特講 病態情報科学特講演習 特別研究	1. 食塩感受性高血圧と心不全の病態解析 2. メタボリックシンドロームの病態解析 3. レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系とグルココルチコイドの研究 4. 酸化ストレスと炎症の研究
	准教授	池田 勝彦 Tel 719-3152 E-mail k-ikeda	病態情報科学特講 病態情報科学特講演習 細胞遺伝子情報科学特講 細胞遺伝子情報科学特講演習 特別研究	1. 人工知能・深層学習による細胞検出 2. 細胞診標本における新たな分子生物学的検索法の開発 3. 採取条件・保管による細胞形態像変化の解析 4. 細胞診における精度管理
細胞遺伝子情報科学	教授	早川 文彦 Tel 719-1186 E-mail bun-hy	細胞遺伝子情報科学特講 細胞遺伝子情報科学特講演習 特別研究	1. 遺伝子異常による造血器悪性腫瘍発症メカニズムの解明 2. 転写因子のタンパク翻訳後修飾による血球分化制御機構の解明 3. 造血器悪性腫瘍治療薬スクリーニングシステムの開発
生体分子情報科学	教授	石川 哲也 Tel 719-1561 E-mail ishikawa	細胞遺伝子情報科学特講 細胞遺伝子情報科学特講演習 生体分子情報科学特講 生体分子情報科学特講演習 特別研究	1. 難治性肝疾患の免疫学的病態解析・治療 2. B型肝炎ウイルスの生活環の可視化 3. 幹細胞技術の肝疾患治療への応用 4. 移植幹細胞の in vivo イメージング
	准教授	上山 純 Tel 719-1341 E-mail ueyama	生体分子情報科学特講 生体分子情報科学特講演習 特別研究	1. 腸内環境評価に関わる化学分析法の開発と臨床・疫学応用 2. 化学物質曝露評価の超高効率フローの開発 3. 酸化型アルブミンの臨床的および疫学的測定意義の解明
	講師	林 由美 Tel 719-1196 E-mail yhayashi	生体分子情報科学特講 生体分子情報科学特講演習 特別研究	1. 胎生期環境と次世代影響に関する研究

予防・リハビリテーション科学 (メールによる問い合わせ先: @met.nagoya-u.ac.jp を続けてください)

講座	職名	氏名及び連絡先	担当授業科目名	研究課題
創 生 理 学 療 法 学	教授	内山 靖 ウチヤマ ヤスシ Tel 719-3155 E-mail uchiyama	リハビリテーション療法学特講Ⅰ リハビリテーション研究実践特講セミナー 特別研究	1. 姿勢・運動の制御と学習に関する研究 2. 症候障害学に関する研究 3. 神経系理学療法学に関する研究 4. 理学療法学教育に関する研究
	准教授	李 佐知子 リ サチコ Tel 719-1348 E-mail lee	リハビリテーション療法学特講Ⅰ リハビリテーション研究実践特講セミナー 特別研究	基礎的研究 1. 脳梗塞後の運動機能障害(特に痙縮)の発症メカニズム 2. 脳梗塞後の運動機能回復のメカニズム 3. 脳梗塞後の運動機能障害における新たな治療法の確立
作 業 療 法 科 学	教授	飯高 哲也 イイダカ テツヤ Tel 719-1367 E-mail iidaka	リハビリテーション療法学特講Ⅱ リハビリテーション研究実践特講セミナー 特別研究	1. 精神障害の病態とリハビリテーション 2. 機能的 MRI を用いた高次脳機能研究 3. 感情の脳内機構 4. 扁桃体と顔認知
	教授	千島 亮 チシマ マコト Tel 719-1369 E-mail mchishi	リハビリテーション療法学特講Ⅱ リハビリテーション研究実践特講セミナー 特別研究	1. 生体信号計測と重度身体障害者支援技術 2. 生活支援技術の探求と生体信号応用 3. 脳神経科学と支援技術研究 4. 新たな支援技術提案と作業療法プログラム策定
	教授	寶珠山 稔 ホウシヤマ ミノル Tel 719-3159 E-mail hosiyama	リハビリテーション療法学特講Ⅱ リハビリテーション研究実践特講セミナー 特別研究	1. 感覚運動連関 2. 非侵襲的神経機能計測 3. 高次脳機能に関する神経活動の計測
	准教授	上村 純一 ウエムラ ジュンイチ Tel 719-1368 E-mail uemura	リハビリテーション療法学特講Ⅱ リハビリテーション研究実践特講セミナー 特別研究	1. 作業療法領域における脳機能研究 2. 高齢者における活動・参加の評価に関する研究 3. 日常生活活動と脳機能の関連に関する研究
	講師	五十嵐 剛 イガラシ コウ Tel 719-1374 E-mail igarashi	保健学セミナー リハビリテーション療法学特論Ⅱ リハビリテーション研究実践セミナー リハビリテーション療法学セミナーⅠ リハビリテーション療法学セミナーⅡ 特別研究	1. 地域で暮らす発達障害児の活動・参加に関する研究 2. 幼児期の活動・参加の評価に関する研究 3. 不器用さのある子どもに対する作業療法
	講師	星野 藍子 ホシノ アイコ Tel 719-3176 E-mail hoshino	リハビリテーション療法学特講Ⅱ リハビリテーション研究実践特講セミナー 特別研究	1. 精神障害者の生活支援・就労支援における作業療法 2. うつ病女性の育児・家事労働支援 3. 摂食障害患者に対するリハビリテーション

ヘルスケア情報科学 (メールによる問い合わせ先: @met.nagoya-u.ac.jp を続けてください)

講座	職名	氏名及び連絡先	担当授業科目名	研究課題
先端メディア情報 健康医療学				
生命人間情報健康 医療学	准教授	松井 佑介 Tel 719-1362 E-mail matsui	先端生命情報学特講 先端生命情報学特講演習 先端社会健康情報学特講 先端社会健康情報学特講演習 保健医療データ活用法特講 特別研究	1. 生命科学、医科学および健康科学を対象としたデータサイエンス手法、ソフトウェア開発およびデータ解析 2. 疾患特異的な分子メカニズムの理解と分子標的の同定を目的とした大規模オミックスデータ解析手法の開発 3. ヘルスケアに関わるセンシングデータに対する解析手法の開発
実社会情報 健康医療学	准教授	中 枋 昌 弘 Tel 719-1923 E-mail mnakatochi	先端生命情報学特講 先端生命情報学特講演習 先端社会健康情報学特講 先端社会健康情報学特講演習 保健医療データ活用法特講 特別研究	1. 疾患や体質のゲノムデータ解析 2. 血中のマルチオミックスデータを活用した疾患診断モデル・疾患発症予測モデルの開発 3. 母体・新生児データを用いた新生児の予後予測 4. 健康診断データを用いた要介護認定に至るリスク要因の探索
先端計測情報健康 医療学	准教授	バガリナオ・エピファニオ・ジュニア・ティラ BAGARINAO, Epifanio Jr. Tila Tel 719-1864 E-mail ebagarinao	保健医療データ活用法特講	1. 脳画像データを用いた脳の構造と機能の解明に関する研究 2. リアルタイム機能的磁気共鳴画像の開発と応用

試験場案内略図

場所：名古屋大学大学院医学系研究科・医学部保健学科
 名古屋市東区大幸南1-1-20
 電話 (052) 719-1598, 1518, 1521

※ご来場の際は公共交通機関をご利用下さい。お車でのご来場はご遠慮下さい。

◎地下鉄利用の場合

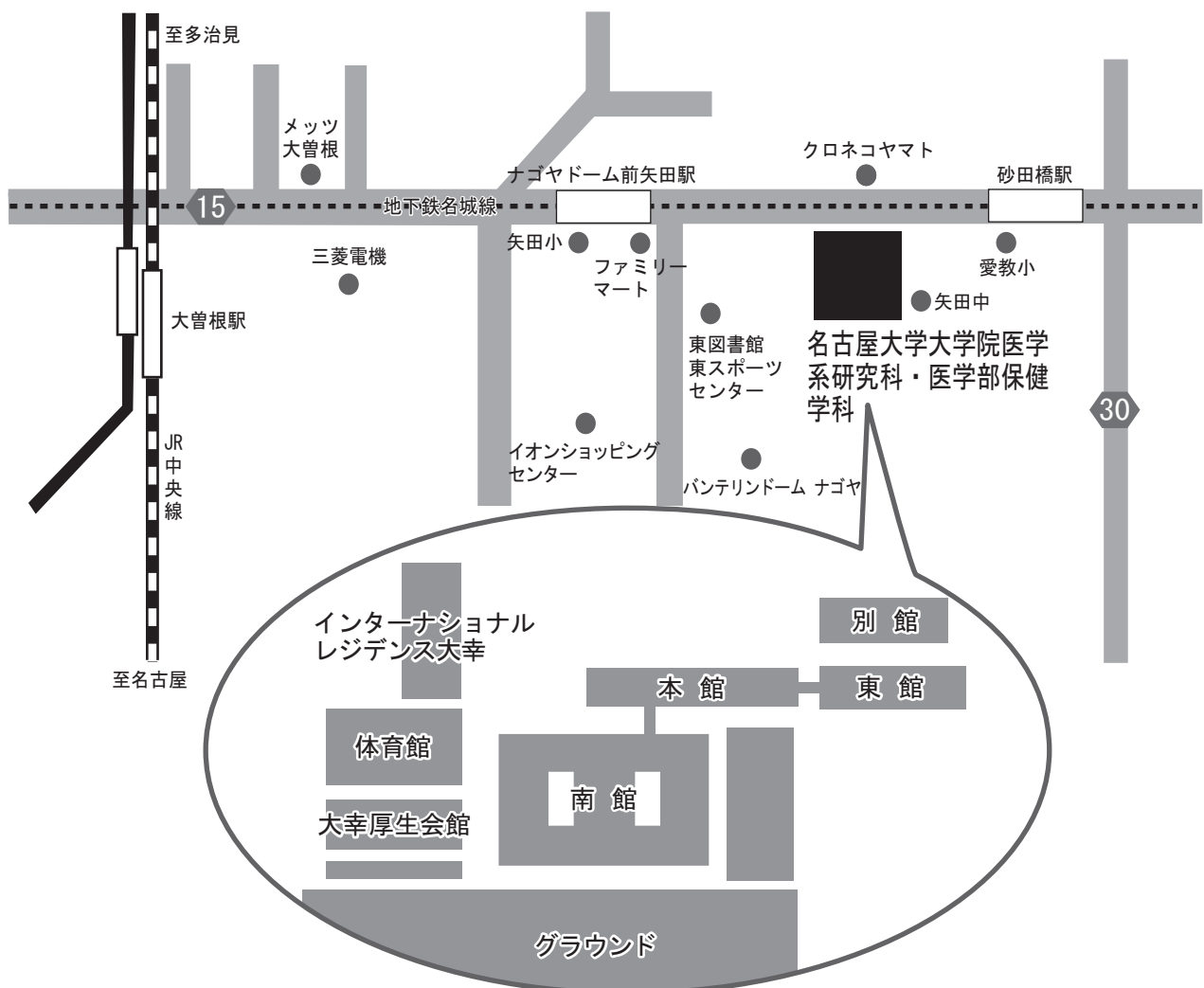
名城線 「ナゴヤドーム前矢田」駅下車（1番出口） 徒歩7分
 「砂田橋」駅下車（1番出口） 徒歩7分

◎JR又は名鉄利用の場合

JR 中央線 } 大曽根駅から徒歩約20分
 名鉄瀬戸線 }

市バス「砂田橋」行（名駅15） 「大幸三丁目」下車すぐ

「大曽根」駅からゆとりーとライン（ガイドウェイバス）「ナゴヤドーム前矢田」駅下車 徒歩5分



コンビニ・クレジットカードでの入学検定料支払方法

コンビニ端末で直接お支払の場合(インターネット不要) ※日本国内のみ

クレジットカードでお支払の場合

1 お申込み

セブン-イレブン
マルチコピー機

<https://www.sej.co.jp>

最寄りの「セブン-イレブン」にある「マルチコピー機」へ。



TOP画面の「学び・教育」よりお申込みください。



学び・教育
↓
入学検定料等支払

LAWSON **Loppi** MINISTOP **Loppi**

<https://www.lawson.co.jp>
<https://www.ministop.co.jp>

最寄りの「ローソン」「ミニストップ」にある「Loppi」へ。



TOP画面の「各種サービスメニュー」よりお申込みください。



「各種申込(学び)」を含むボタン
↓
学び・教育・各種検定試験
↓
大学・短大、専門、小・中・高校等お支払い

<パソコン・スマートフォン>

本学「入学検定料支払い」ページにアクセス



<https://e-apply.jp/n/nagoya-u51/>



申し込み から

画面の指示に従って出願する入試を選んだ後、基本情報を入力。

入力内容が表示されます。間違いがなければ、次のページで表示される「受付番号(12桁)」を必ず控え、お支払い画面に進んでください。

※カード決済完了後の修正・取消はできません。申込を確定する前に、内容をよくご確認ください。

クレジットカードでお支払い



●お支払いされるカードの名義人は、受験生本人でなくても構いません。但し、前段の画面で入力する基本情報は、必ず受験生本人のものを入力してください。


名古屋大学大学院 をタッチし、申込情報を入力して「払込票/申込券」を発券ください。

*漢字氏名入力欄において、漢字氏名のない方はカナ入力してください。
*画面ボタンのデザインなどは予告なく変更となる場合があります。

2 お支払い


①コンビニのレジでお支払いください。

端末より「払込票」(マルチコピー機)または「申込券」(Loppi)が出力されますので、30分以内にレジにてお支払いください。



②お支払い後、チケットとレシートの2種類をお受け取りください。

「取扱明細書」(マルチコピー機)または「取扱明細書兼領収書」(Loppi)。



*お支払い済みの入学検定料はコンビニでは返金できません。
*お支払期限内に入学検定料のお支払いがない場合は、入力された情報はキャンセルとなります。
*すべての支払方法に対して入学検定料の他に、払込手数料が別途かかります。

お支払い後に上記URLまたは支払い完了メールに記載されたURLへアクセス(※1)し、

「**収納証明書の印刷**」からPDFファイルをダウンロードの上、印刷してください。


※1:お申込の際に発行された「受付番号(12桁)」が必要です。

上記URLからアクセス

※PDFファイルを印刷するためのプリンターが必要となります。

3 出願

「取扱明細書」または「取扱明細書兼領収書」の「**収納証明書**」部分を切り取り、志願票の「**入学検定料収納証明書貼付欄**」に貼付して郵送ください。



貼付する場合、「感熱・感圧紙などを変色させる場合があります」と記載のある糊は使用しないでください。「収納証明書」が黒く変色する恐れがあります。

【操作などのお問合わせ先】 学び・教育サポートセンター <https://e-apply.jp/> ※コンビニ店頭ではお応えできません。

